

ココで
暮らそう

そおじょう!



Let's live here. Will do SOO!



INDEX

移住者インタビュー

・アームシャー・理恵さん.....	3
・小野 公裕さん.....	5
・玉利 泰宏さん.....	7
・三浦 恭子さん／平澤津 あやさん.....	9
子育て世代座談会「みんなで話そう おもしろい!」....	11
曾於市の移住応援施策.....	13
移住までのステップ.....	15
アクセス.....	17

まちのみんなが
あったかいから、
わたしたち、
あかるく元気に
育ちそお。

曾於市をひと言でいうと「ちょうどいいまち」。
手つかずの自然がいっぱいだけど、
鹿児島県の空の玄関口・霧島市と
宮崎県の中核都市・都城市の
両方に隣接している上、
鹿児島市にも宮崎市にも行きやすいから
日常生活の利便性もしっかり。
自然の中にあつて両県の恩恵が得られる
その塩梅が、ちょうどいいんです。

あるがままを、あるがままに。
必要なものを、必要なだけ。
人もまちもそういう風に育ってきたから、
曾於市はあったかい。
農業、子育て、スローライフなどなど、
もしもここで暮らしてみたいなら、
もちろんみんな大歓迎。
そして全力でおすすめます。
「ここで暮らそう、おもしろい」と。

アームシャー・理恵 さん

曾於市の
ココが 好き!

『夜空』晴れている日は星がキレイ! 運転中に気づいて、車を止めて見上げることも。星の瞬きをぼんやり眺める…特別じゃないけど幸せな時間です。



「ゆったりと呼吸をして…」古い民家の二室に、穏やかな声が響きます。声の主はアームシャー・理恵さん。理恵さんが曾於市にやってきたのは2017年のこと。そこから知り合った様々な人との縁をつなぎ、2018年4月からこの家で暮らしがスタートしました。ヨガのインストラクターという経歴を活かし、外部講師として活躍しながら、週に一度は自宅スタジオでのレッスンを行っています。受講者は曾於市だけでなく、隣の都市からも。留学先のアメリカで出会ったヨガに魅了され、インドでも本格的に学んだ理恵さん。受講生からの要望で始めたという英語と日本語のバイリンガルでのヨガレッスンは、「英語の勉強にもなる」と評判を呼んでいるようです。

ヨガや英会話の講師をしながら生活を確立

ふらりと訪れた人間を、素晴らしくおおらかな気持ちでサポートしてくれました。

山口県出身の理恵さんですが、お父さんの故郷が曾於市。「ヨガ探求のため、生活環境を変えたい」と思っただけです。その時に浮かんだのが「ここでした」と、アメリカから帰国。しかし、曾於市には幼い頃に数回訪れた程度でツテもほとんど無い状況。最初は畑の小屋でキャンプみたいな生活をしていました(笑)。心細くてホームシックにもなりましたが、豊かな自然と人々の心の温かさに触れてこの土地が大好きに。一人でふらりと訪れた人間を、素晴らしくおおらかな気持ちでサポートしてくれたい(笑)に感謝です。聞けば聞くほど、理恵さんの明るさとエネルギーに満ちた行動に驚かされます。しかしそんな理恵さんだからこそ、出会いを縁に変えることができたのかもしれない。

ツテもほぼ無いのにアメリカから曾於市へ

美味しく楽しく健康的な食の発信も視野に

気になるモノ、気になるコト、気になるヒトにはアグレッシブにアプローチしていく。そんな理恵さんの探究心は、曾於市に移住してきてさらに広がりをみせています。「次は“食”の充実に取り組みたくて、畑を借りて野菜を育て始めました。農業は初挑戦。自然農法や有機栽培が理想なんです。独学なのでなかなかスムーズには進みません。今のところ成功したのはジャガイモとケールだけ!」と笑う理恵さん。苦勞も何だか楽しそう。最後にこれからやりたいことを聞いてみました。「楽しめて、美味しくヘルシーな食事を提供できれば。私の畑だけでは難しくても、曾於には良い農産物を作る人がたくさんいます。みんなと協力して、曾於市から発信していきたいですね」。



自宅スタジオでのヨガレッスンが終わると、ハッサク、リンゴ、レモン、人参を使ったスムージーが登場! 実はこれ、ロバートさんの手作り。



アメリカ在住中のニックネームである「リア」とも呼ばれている理恵さん。2018年末には夫のロバートさんも来日し、曾於市住民に。



小屋住まいだった頃は温泉に通い、商店街にも顔を出し、周囲へ積極的に話しかけていく。理恵さん曰く「アメリカでの経験が活かした」そう。



縁側のある和室2間をスタジオに。自宅の改装もDIYで少しずつ進めている。レッスンは1回4〜5名。インスタなどで情報発信中。



小野 公裕 さん

曾於市の
ココが好み!

『悠久の森』小川が流れ、森林浴にぴったりの場所。新緑や紅葉の時期もステキですが、個人的には小雨が降る朝(8〜9時)の幻想的な雰囲気がお気に入り。



2012年3月に閉校した曾於市立財部北中学校が、翌年5月に『たからべ森の学校』として生まれ変わりました。その事業運営に手を挙げたのが小野公裕さん。ホームページ制作や運用支援を行う会社の代表です。「中学校の活用募集があったところ、大隅地域で仕事の拠点になる場所を探していたんです。曾於市のホームページに関わっていたこともあり、地域の皆さんの人柄のよさを知っていたし、地理的にもいいと思いました」。実は曾於市、高速道路を使えば鹿児島市内から1時間ほど。空港は鹿児島も宮崎も約1時間で行けます。隣接する都城市は宮崎県で2番目に人口が多く、大型店舗もあってショッピングに便利。小野さんは、そんな立地にも魅力を感じていました。

元中学校の活用募集で
曾於市の魅力を再確認

職業訓練や田舎暮らし体験を通じて 曾於市の魅力や可能性を 感じてもらえるといいですね。

地域に根ざした就職を
支援する学校づくり

小野さんは現在の仕事を始めるにあたり、職業訓練を受けた経験があります。新たな知識・技術の習得が気持ちを前向きにしてくれることを実感しました。だから就職支援というカタチで、再就職を目指す人をサポートしたいと考えていて、そこで『たからべ森の学校』の構想が浮かんだわけですね。当初はパソコン関連の訓練を想定していましたが、地元の人では農業関係が多いことに気づきます。地域のニーズをくみ取り、農業や農産加工、調理補助などの訓練講座を開講。曾於市民だけでなく、移住を見据えて都市部から訪れる人もいます。また、学校での宿泊や田舎暮らし体験ができるメニューも用意。移住先の環境や雰囲気を確認したい人にも利用されています。

みんなが曾於市に集い
交流を図る取り組みも

移住先での生活が成り立つかを不安に感じる人は少なくないはず。『たからべ森の学校』では、訓練生に対するキャリアアコンサルティングや卒業後の相談にも応じています。小野さんの喜びは、「卒業生にとってここがいつでも帰れる場所になること。何より、曾於市で暮らしていきたいと思ってもらえるのが一番うれしいですね」。移住先でこんなふうに頼れるところがあるのは、大きな魅力とさえそうです。2016年には元職員室を使ってカフェをオープン。マルシェなどのイベントを開き、市外から訪れる人との交流を図る取り組みにも力を注いでいます。「夢は、施設の増築。閉校になった学校を増築するってユニークでしょ? (笑)」。その夢がかなう日も遠くないかもしれません。



財部北中学校の正門はそのまま。当時の雰囲気を残しつつ、目的に合わせて空間をリフォーム。職業訓練、体験型宿泊、カフェの顔を持つ。



体験型宿泊の講師でもある鈴木さん。古き良き時代の暮らしを体験するメニューには薪割りも。作った薪は、校内の五右衛門風呂で使われる。



自身は垂水市出身。仕事の都合もある。古き良き時代の暮らしを体験する「客観的な視点」を持ちながら携わっていく姿勢も小野さんならではの。



「たか森カフェ」では、学校農園で訓練生が育てた野菜をはじめ、地元食材を使ったランチやスイーツを味わえる。



玉利 泰宏 さん

皆於市の
コゴロ好?

岩川の商店街ですね。昔ながらの風情が残っていて、散歩するのが楽しいんです。通り沿いには築100年ほどの建物(旅館)も。街灯が照らす夜の風情も情緒満点。



末吉町のとある高台。茶畑や牧草地が広がる見晴らしのよい場所に、玉利さんの仕事場である『たまり農園』があります。「畜舎の横はうちの小麦畑。植栽したクヌギの木がだいぶ大きくなったので、しいたけの菌を打とうと思って少し伐ったんですよ。農園のあちこちを歩きながら、ゆっくり淀みなく進む解説が耳に心地よく響きます。小麦にしいたけと手広く営んでいる印象ですが、たまり農園の主軸は養豚。多い時は20頭前後の黒豚が、のびのびとした環境で肥育されています。地域の生産農家さんから、必要な数だけを直接仕入れるのが玉利流。しかも、育てるのは雌のみ。雄より小柄なので量は少なくなりますが、その分やわらかく、クセの少ない肉質が魅力なんだそう。

のどかな景色の中で
のびのびと育てる

自然環境にやさしい
畜産をかなえるために

玉利さんが畜産や環境を意識しはじめたのは子供のころ。「住んでいた町を流れる川の水質が九州ワースト1でした。汚染の大きな原因は畜産関係の廃水。だから当時は、畜産＝環境破壊の源、というイメージを持っていました。広島大学の農業や水産について学んだのち、外食産業の会社で就職。商品開発を担当していたのですが、そこで鹿児島県の畜産物に対する高い評価を耳にします。一方で、食品ロスが多い現状にも直面。自分にも何かできることはないかと考えた玉利さんが選んだのは、畜産の道でした。ご両親の故郷である皆於市へ20年前に移住。とはいえ、養豚はまったくの素人です。「環境に負荷をかけない方法を模索するうち、土着菌に出会ったんです」。

独自開発した技術で
循環型農業に挑む

「土着菌」とは、土地についている微生物のこと。畜舎の床土にまけば排泄物を分解して二オイを抑え、肥料に再利用できます。そんな土着菌を活用するべく独自研究を始めた玉利さん。今では床土だけでなく、エサにも土着菌を使用。「米ぬかやおから、オリブオイルの搾りかす、給食残さなどを集めて土着菌で発酵させるんです。発酵飼料は保存がきいて無駄がありません。肉質の向上にもつながり、価格も市場より高値。オーガニック系レストランからの注目度も高いんですよ。農場のスタートから約18年、目指す畜産へと着実に前進中です。2019年には畜産設備の会社を立ち上げ、職人による技術支援にも着手。皆於市から、環境にやさしい循環型農業を広げていきます」。

土着菌を床土や飼料に使うことで 環境に負荷をかけない畜産が 少しずつ実現してきています。



岩川の商店街。かつての賑わいは無いが、新旧が混濁した味わいのある街並みが玉利さんのお気に入り。路地に入って散歩を楽しむのもいい。



玉利さんが育てる黒豚は、「薩摩集豚(さつまはやとん)」という名称。限られた店舗や直売でのみ流通している。



高台にある『たまり農園』は、夕景スポットでもある。手前の畑で育てている小麦は希少な在来種。「うどん部」では、麦踏みや手打ちも行った。



地域おこし協力隊が自主運営する部活動で、「うどん部」の部長を務める玉利さん。農園の仕事を通じて、社会や人とのつながりを濃くしている。



三浦 恭子 さん／平澤津 あや さん

曾於市の
ココが好々！

三浦さん(左)／『お肉』牛・豚・鶏すべてが美味しい！しかも高価じゃないお肉までも。学校で肉を食べ比べる授業があるのも驚きでした。

平澤津さん(右)／『南之郷』父の故郷。帰省時は朝、牛の声で目覚めていました。川の音や田んぼのあぜ道、素朴で穏やかな風景がたまりません♪



鹿児島にルーツを
持つ二人が隊員に

三浦恭子さんと平澤津あやさんは、地域おこし協力隊として2016年に曾於市へやってきました。二人とも関東の出身ですがルーツは鹿児島県です。三浦さんは始良市にお母さんの実家があり、平澤津さんは曾於市にお父さんの実家です。

前職でテレビ制作や出版の仕事をしていた三浦さん。曾於市に知り合いはまったくいませんでした。求人を見て転職してきました。鍼灸師として働いていた平澤津さんは、幼い頃から年に一度の帰省が楽しみで、いつか大好きな町で暮らしたいという思いを持っていたそう。

半年違い(三浦さんが半年先輩)で協力隊になり出会った二人は、さまざまな活動で曾於市を駆け回ることになります。

できることを一つずつ
積み重ねていく日々

「曾於市のよさを見つけて掘り出し、地域内外に発信するのが私たちの仕事。そうして市全体のレベルアップにつなげたいんです」という二人。現在、三浦さんは市役所企画課の広報で地元PRに携わり、企画立案から取材、原稿づくり、誌面のレイアウトまで行っています。平澤津さんは、市の教育委員会や自主文化事業の企画として、アーティストを呼んでイベントを行ったり、マルシェを開くなど行ってきました。市報では「実は隣のスゴイ人」という協力隊のコーナーが、地域の隠れたスゴイ人に会いに、月に一度取材に行っています。

ふだんの業務を通して多くの出会いに恵まれたことが、隊員活動の幅を広げるきっかけになったようです。

興味深い人や環境を
見つけてつなぐ

活動の中で出会った地域の方々と一緒に何かやりたいと考えた二人は「そお学校」を立ちあげました。これは「曾於市で大人の部活動をしよう」をテーマに、曾於市でさまざまなイベントを行うもの。

これまでに「版画部」「うどん部」「張り子部」などで地域の人の部長(講師)になつてもらい、部員(参加者)を募集。スタートして1年ですが、市内外から約200人が部員となつています。

また、地元若手の情報交換の場になればと、U40飲み会を仕掛けるなど、人材やおもしろいことの発掘に余念がありません。

「皆さん好奇心が強く、こころよく力を貸してくれます。ヨソ者も一緒に楽しむ人と環境が曾於市にはある。素敵な出会いがたくさんありますよ。」

「地域とヨソ者が一緒に楽しむ」 そんな人たちと環境が 曾於市にはあると思います。



二人が理事長である「そお学校」を起点に、曾於市の魅力をPR。部活動に参加すると、写真のような生徒手帳がもらえるのも楽しい。



市民が気づかない曾於市のディープな魅力を掘り起こし、地域の人の自信にもつなげていく仕事だ。(写真左が三浦さん、右が平澤津さん)



地域おこし協力隊の正装(?)は、曾於市特産のゆず推しが光るオリジナルジャージとアメコミ風のTシャツ。これらをはじめ、曾於市3町を紹介するマップなども自分たちの意見を盛り込み、デザイナーと一緒に考えたそう。「気になる」「行きたくなる」「アンテナに引っかかる」デザインにも注力している。



曾於市の
ココが好き！

KSさん
(財部町在住)

「道の駅」が各町にあり、安くて新鮮な農産物が手に入ります。食卓に季節感が出て、食育にもつながりそうです。

曾於市の
ココが好き！

NSさん
(大隅町在住)

子供といると年配の方によく声をかけられます。買い物時も店員さんがサポートしてくれるなど、周囲がやさしい！

曾於市の
ココが好き！

KMさん
(大隅町在住)

地区の自治会に参加。イベントに親子で行くと子供の相手をしてもらうなど、助かります。自治会は入っておくべき。

曾於市の
ココが好き！

TMさん
(末吉町在住)

子育てに手厚い！これを県内各地に住む友人と育児談義をして実感しました。初めての育児でも安心ですよ。

曾於市の
ココが好き！

KNさん
(末吉町在住)

とにかく人がいいんです。結婚を機に住み始めた当初は不安でしたが、様々な人に助けられ、悩みも心配も消えました。



曾於市での育児について、地元で暮らす未就学児のママに意見を聞いてみました。子育てには家族だけでなく、地域や社会の協力が不可欠。移住となると、近くに頼れる人が少ない場合も。そんなときに親子で気軽に遊びに行けて、相談できる。そんな環境が曾於市には整っているみたいです。

子供を育てる環境として「いいな」と感じるポイントは？

TMさん／曾於市子育て支援センターが、平日なら毎日開放されているのがありがたいです。自治体によっては、決まった曜日しか利用できないところもあるそうなので。自宅で子供たちと過ごすのも幸せな時間ですが、ここにくると子供たちも楽しそうなんです。安心して遊ばせられる環境が整っているの、私もホッと一息つきます。

KNさん／ちよとした相談でも、先生たちが親身になって対応してくださるので、何かあれば頼っていますね(笑)。

NSさん／健診のときも通りいつんの受け答えじゃなく、一人ひとりにきちんと時間を割

CITY」には、休日当番医も掲載されているので参考になります。

大高さん／皆さん、積極的に情報を取っていただいているようにうれしい限り。ところで市の防災ラジオは活用されていますか？

全員／あまり聞いていません…。急に大きな音で流れるので驚いてしまうことが多いです。

大高さん／一帯に1つずつ無償配布している防災ラジオでも、1日3回市の情報を流しています。これでコミュニティFMの放送も受信できるので、ぜひ活用してみてください！

子育て支援センターの他に、子供が遊ぶ場所があれば教えてください。

KSさん／子供がまだ小さく、公園の遊具をうまく使えないのであまりあちこちには行きません。ふだんは近所の畑の周りを走り回っているくらい(笑)。ただ、「道の駅おおすみ 弥五郎伝説の里」の公園は広くていいですね。

KNさん／遊ぶ場所に入るかはわかりませんが、家族で買い物に出かけることはあります。日用品は市内のスーパーなどで十分ですが、子供用品とな

いてくれる印象。栄養士や歯科衛生士、保健師とスペシャリストが揃っているの、こぞとばかりに質問しています。

KSさん／財部町には、保育園が主催する子育て支援センターがあります。曜日ごとに違う活動をしていたり、イベントがあったり。子育て相談日も用意されているので、初めての育児に臨むママには心強いのではないのでしょうか。

KMさん／子育て支援センターの出張もあるんですよ。2019年度には大隅町・財部町にも施設ができるとのこと。末吉町まで足を伸ばしていただくと、近所に行けるとまた便利になりそうです。

曾於市定住推進係・大高さん(以下大高さん)／未就学児の保

ると品揃えのいい都城市へ。なかでもイオンや西松屋が定番スポットです。お隣の市なので気軽に行けますよ。

これまでの話では、曾於市は子育てしやすい町のように見えます。「ここが不便」という意見は？

KMさん／小児科のある病院が2カ所だけ。選択肢が少なく、やはり困ってしまうことも。緊急で当日診てもらいたいときに、他の診療科に行ったこともあります。

NSさん／妊婦検診はお隣の都城市の病院で受診OKなのに、子供の予防接種に関しては、都城市の病院はNG(市が定めた実施医療機関以外での接種は自己負担になる)なので、うっかり都城市で予防接種を受けたいように気をつけてくださいな。

KSさん／医療関係で不便といえば、医療費の支払いについて。曾於市だけでなく、鹿児島県全域で「償還払い」なんです。いったん窓口で全額支払って、その後払い戻しを受けるという、まあまあ面倒くさいシステム(笑)。

護者様にとって「子育て支援センター」はとても頼り甲斐のある場所になっているようですね。安心しました。

子育てに関するイベントなどの情報はどこで入手を？

NSさん／子育て支援センターの掲示板で確認することが多いです。他にスーパーなどでも見かけますから、買い物に行った際に気をつけているといいかもかもしれません。

TMさん／曾於市のウェブサイトにからも支援センターの行事予定を知ることが可能「すまいるキッズ」という子育て支援サイトもあるんですよ。

KMさん／曾於市の市報「S.O.O

TMさん／結果的には戻ってくるんですけどね。他県のように窓口無料化になるといいんですけど。

大高さん／「償還払い」を行っているのは、九州では鹿児島県くらいのこと。手間をとって心苦しいのですが、曾於市の「子ども医療費助成制度」は、0歳～高校卒業年齢(満18歳到達後最初の3月31日まで)が対象。高校卒業までお子さんの医療費はほぼかからないので、何かあれば早めに受診して健康に役立ててもらいたいと思います！

全員／確かに、高校卒業まで医療費助成が利用できるのはありがたいです。こうした子育てに関するサポートが充実しているのは曾於市の魅力の一つだと思います。

大高さん／みなさん本日はどうもありがとうございました。



教育

保育園から高校まで、
地域ぐるみのサポート
あります。



保育園・幼稚園・各学校

曾於市では、自然あふれる豊かな環境で、保育園・幼稚園・各学校がそれぞれ特色ある教育を行っています。地域との交流も多く、のびのびとした子ども教育が魅力です。

- 幼稚園1園
- 認定こども園7園
- 保育園7園
- 小学校20校
- 中学校3校
- 高等学校1校

鹿児島県立曾於高等学校

公立ながら文理科、普通科、畜産食農科、機械電子科、商業科と大変バラエティに富んだ5つの学科を設置しており、未来を担う多彩な人材育成に貢献しています！



学力向上支援員配置

必要に応じ、小学校に学力向上支援員を配置します。

小規模・複式校では、主に複式指導の充実に向けた支援を行います。大規模校は、複数の教師が授業を行うTT指導や個別指導を中心に、学力向上を目指します。一人ひとりの実態に即したきめ細やかな指導が特長です。

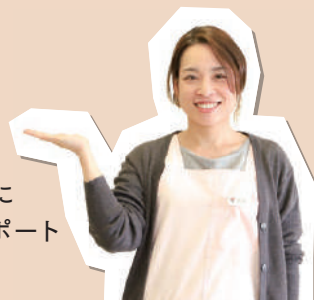
曾於市の 移住

このまちを大好きになって、そして末永く暮らしてほしいから、曾於市では移住を全力で応援するための施策をたくさん用意しています。
ほかにも疑問や質問など、気になることがあったらお気軽にお問い合わせください。

曾於市役所 企画課 地域創生推進室 定住推進係
TEL：0986-76-8802(直通)

子育て

妊娠・出産・子育てに
関するさまざまなサポート
あります。



第三子出産祝い金

曾於市では、第3子以降出産した家庭に、1子に対し10万円支給しています。

子ども医療費助成

18歳までの子どもを対象に、病気などでかった医療費自己負担分(入院・通院・薬代)を曾於市が全額助成します。

24時間健康・医療相談サービス

医療や育児、悩み事の相談に、専門のスタッフが24時間体制で電話対応します。電話代・相談料は無料です。

給食費の補助

市内小中学校生徒の給食費の1/3を補助しています。月に1000円程度安くなっています。

応援 施策

仕事

新規就農の補助金や
店舗新築、起業等の
サポートあります。



新規就農者支援

これからの農業を担い、支える農業高校生、新規就農者や農業後継者の育成支援を行っています。

新規就農者支援対策事業補助金

- 月額5万円～15万円(2年間)

曾於市には新規就農者向けの職業訓練校があり、農業実習や座学でしっかりと学ぶこともできます。

商工業後継者の育成

曾於市在住で新たに商工業に従事する方には、2年間、月額5万円または7万円の支援をしています。

店舗新築・改築の補助

曾於市の活性化と雇用の創出、後継者育成のため、店舗新築や既存店舗の改築工事費を一部補助しています。

補助の基準

- 対象工事費の30% ● 最高50万円補助

仕事編

曾於市の「しごと創生」の一環として、学校跡地を活用した女性起業家の創業・起業をセミナー開催やチャレンジショップを通して支援しています。コワーキングスペースも開設され、仕事を応援しています。

暮らし

曾於市での
移住体験プログラムや
住宅のサポートあります。



移住体験プログラム

曾於市に泊まって農業体験を行う田舎暮らし体験などができます。

田舎暮らし体験講座

- 1泊2日コース(プチ旅行コース)
- 2泊3日コース(まったりコース)
- 6泊7日コース(曾於市堪能コース)

住宅取得祝い金制度 + 市有地活用補助制度

市内に家を新築・購入した場合にお祝い金の交付があります。市外からの転入者で子育て世帯の場合は加算、市有地活用補助制度も！(最大100万円交付)

さらに、区画整理地や格安分譲地の販売もあり！

空き家バンク

曾於市公式サイトには、空き家情報を提供する「空き家バンク」を掲載しています。

また、改修費用の30%(上限50万円)を補助する空き家バンクリフォーム補助制度もあります。





曾於市 移住まで

ステップ6

住まいを見つける

自分の条件にあった住まいを探しましょう。選択に迷ったら、移住の目的を再確認して、自分がリストアップした条件に立ち戻ってみるのもよいでしょう。

移住を決めたら、まずはいったん落ちついて。目的や生活の手段などをもう一度ふり返り、じっくりと考えてみましょう。その際に生まれた疑問や質問は、ぜひ曾於市までお気軽におたずねください。

曾於市役所 企画課 地域創生推進室 定住推進係
TEL: 0986-76-8802(直通)

ステップ5

仕事を探す

移住前に移住先での仕事を探しましょう。移住後に仕事を探す場合は、当面の生活費を準備しておきましょう。起業を考えている場合は、情報収集を綿密に行いましょう。

■ハローワーク大隅
TEL: 099-482-1265



GO! ステップ1

移住の目的を考え、ご家族で検討する

自分や家族が何のために移住するのかを再確認しましょう。どのような環境で、どのような生活を送りたいと思っているのか、譲れるところと譲れないところは何か、それらを具体的に考えることが重要です。



ステップ3

移住先の情報を集める、相談する

住みたい地域についての情報を収集しましょう。住まいや仕事、交通アクセスや自然環境、医療機関や教育環境など、知っておきたい情報がたくさんあるはずです。

インターネット等で情報収集するのも有益ですが、東京などで開催している移住検討者向けの相談会もぜひ活用してみてください。また、鹿児島県が東京都に設置している『かごしま「よかとこ」暮らし支援センター』もご活用ください。



ステップ2

現実的な条件をリストアップする

移住の目的を再確認したら、自分なりの条件をリストアップしましょう。「子どもを預けられる保育園が近くにある」「家賃は〇万円まで」など、判断の基準となる事項を列挙してみるとよいでしょう。



ステップ4

曾於市へ来てみて、現地を下見する

収集した情報を自分で確認し、その土地の雰囲気をつかんでみるためにも、現地を下見してみましょう。曾於市でも移住体験プログラムを提供しています。ぜひ、活用してみてください。





移住に関するお問い合わせ

曾於市役所 企画課 地域創生推進室 定住推進係

TEL: 0986-76-8802(直通) FAX: 0986-76-1122

<https://soo-ijyu.jp>

